

第 13 回日本臨床腫瘍学会学術集会

テーマ	胃がんの周術期補助化学療法の今後の展開
企画について	現在の胃癌治療において、唯一根治性が期待できる治療は手術であるが、局所治療である手術治療には限界がある。ASTS-GC や CLASSIC 試験の結果、フッ化ピリミジンをベースとした術後補助化学療法の有効性が示されたが、特にステージ III の治療成績は充分でなく、術前・術後を含めた周術期補助化学療法が期待される。本ワークショップでは、胃癌に対する補助化学療法の有用性を示した近年の臨床試験の成果や新たな取り組みを報告いただき、今後の問題点および展望について議論する場とする。
司会 (予定)	朴 成和 (聖マリアンナ医科大学 臨床腫瘍学講座) 他 1 名